

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

藤田 研二郎

【所属】(助成決定時)

東京大学 大学院人文社会系研究科 社会学研究室

【研究題目】

生物多様性条約への政策提言に向けた環境 NGO と行政機関のセクター横断的連携に関する研究

【研究の目的】(400字程度)

近年環境問題への対策では「環境ガバナンス」「パートナーシップ」といった議論を中心に、行政／企業／市民セクターを横断する多様な主体の連携がしばしば強調される。その中で環境 NGO (Non-Governmental Organization) は、行政／企業セクターの行動をより環境配慮的なもの、持続可能なものに転換する変革主体としての役割が期待されてきた。一方従来の議論では、連携の必要性自体が理念的に強調されてきた反面、その形成条件をめぐる実態的な検討が不足している。

本研究では、NGO と行政機関の間に「セクター横断的連携」が形成される場合の実態的な条件を特定する。またその連携が NGO 自体にとってもたらす帰結の考察を通じて、上記の変革主体としての役割がいかん発揮されるのか／されないのかを明らかにする。以上の目的にもとづき本研究では、生物多様性条約第 10 回締約国会議 (2010 年愛知県で開催、以下 COP10 : Conference of the Parties, 10th Meeting) に向けた日本国内の NGO の政策提言活動に関する比較事例分析を行った。

【研究の内容・方法】(800字程度)

生物多様性条約 COP10 に向けて日本の環境 NGO は、さまざまな地域・分野の NGO とネットワーク組織を設立し、その内部で作業部会ごとに政策提言活動を行った。本研究では、このネットワーク組織の『活動報告』から複数回にわたって行政機関との交渉が確認できる部会を分析対象とした。ここでその対象となったのは、「水田」「国連生物多様性の 10 年」「遺伝子組み換え作物の規制」「遺伝資源の利益配分」に関する 4 つの部会である。本研究全体を通じてはこれらの部会にかかわった NGO のキーパーソンを中心に、のべ 21 件の聞き取り調査を行った。また行政側についても、環境省の元担当者に 2 件の聞き取りを行っている。なお以降の研究成果は、2016 年度東京大学に提出した博士論文に収録、また 2017 年 5 月の日本 NPO 学会第 19 回年次大会で報告し、さらに加筆・修正したものを 2017 年 10 月現在学術誌に投稿中である。

本研究では、NGO と行政機関の連携以前からの「先行する紐帯」、NGO 側の政策提言における「希少な専門知」と「実施主体の定義づけ」、それに対する「行政側のスタンス」の 4 点に着目し分析を行った。上記の 4 つの作業部会の比較分析から、得られた知見は次のものである。まず先行する紐帯と希少な専門知は、本事例において連携形成の重要な条件となっていない。すなわち、行政側と紐帯を有することで連携はある程度促されるが、それがなくとも連携は形成されうるし、希少な専門知は必ずしも連携と関連していなかった。一方 NGO が自らを実施主体と定義づける政策提言、本研究のいう「NGO 事業型」の提言を行う場合には、一様に連携が導かれていた。これは、その提言が行政側の当初のスタンスと適合的でない場合にも当てはまる。このことから NGO 事業型の政策提言が、連携形成の最も有力な条件として示唆される。そしてこの意味で、行政機関とのセクター横断的連携は、NGO 事業型の提言において形成されやすいという一つの選択性を考察できる。

【結論・考察】（４００字程度）

本研究の知見は、環境 NGO に変革主体としての役割を期待してきた従来の議論に対して、次のような意義をもつ。すなわち、上記のような連携形成条件の選択性のもとで政策実施主体となるのは NGO 自身であり、そこから直接的には行政／企業セクターの行動転換は導かれぬ。むしろ、行政／企業セクター独自の政策実施が乏しいまま、NGO 側にいわば「丸投げ」した政策実施体制が構築されてしまう可能性がある。これらは、従来社会福祉領域を念頭に NPO 論で提起されてきた行政下請け化問題、あるいはボランティアの動員をめぐる問題とも一定の親近性をもつ。また NGO は財源・マンパワーの調達において、そもそも不利な立場に置かれている。このことから、上記の実施体制は政策的に成果の乏しい「対症療法」に陥ってしまう可能性がある。以上の知見は、従来検討の乏しかった実態的な連携形成条件、及び NGO 自体にとっての連携の帰結を明らかにするとともに、成果の乏しい政策実施体制、ないし環境政策の停滞の要因についても、新たな問題提起を行うものと位置づけられる。